

薬剤部 DI ニュース

肺炎球菌ワクチン2剤の違いについて

現在、肺炎球菌ワクチンには「ニューモバックス NP」と「プレベナー水性懸濁皮下注」の2剤が市販されています。「**ニューモバックス NP**」は90種類程度の肺炎球菌莢膜多糖体の中から高頻度に分離される23種類の血清型を含有するワクチンであり、接種により我が国における**肺炎球菌感染症の約80%を予防**できると考えられています。なお、このワクチンは**莢膜多糖体からなるワクチン**であるため、**B細胞に働きかけて抗体を産生**しますが、**2歳未満の乳幼児はB細胞系の免疫の発達が未熟であるため、このワクチンを接種しても十分な抗体価を得ることができません。**

「**プレベナー水性懸濁皮下注**」は**小児に対する肺炎球菌ワクチン**です。このワクチンは、我が国における小児の**侵襲性肺炎球菌感染症の約80%が起因する**といわれている7種類の血清型の肺炎球菌莢膜多糖体それぞれにキャリア蛋白を結合させた**結合型ワクチン**であり、結合されたキャリア蛋白を介した抗原提示作用により、2歳未満の乳幼児にも有効な**T細胞依存性の免疫反応を惹起**すると考えられています。さらに追加免疫を行うことにより、ブースター効果を誘導することが確認されています。なお、**プレベナー水性懸濁皮下注では、成人の肺炎球菌感染症のカバ**
ー率は25～35%と低いとされています。

2歳未満の乳幼児に対し「ニューモバックス NP」が誤って接種される事例や、成人に「プレベナー水性懸濁皮下注」が誤って接種される事例が報告されており、誤接種しないよう注意が必要です。

	ニューモバックス NP	プレベナー水性懸濁皮下注
	肺炎球菌ワクチン	沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン
	0.5mL/V	0.5mL/シリンジ
投与対象	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い次のような個人及び患者	2カ月齢以上9歳以下の間にある者
適応	1.脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防 2.肺炎球菌による感染症の予防	肺炎球菌(血清型4、6B、9V、14、18C、19F及び23F)による侵襲性感染症の予防
用法	1回0.5mLを筋肉内又は皮下注	初回免疫：通常、1回0.5mLずつを3回、いずれも27日間以上の間隔で皮下に注射する。 追加免疫：通常、1回0.5mLを1回、皮下に注射する。ただし、3回目接種から60日間以上の間隔をおく。
保険適応	脾摘患者のみ保険適応、その他は自費診療	自費診療。霧島市ではH23年4月より助成あり